上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

人間を読まずに、
世界を読めると
思うな。

2016

文学部 Faculty of humanities

学科を超えて。

「横断型人文学プログラム」を始めました！

2015 年度から「横断型人文学プログラム」（Interdepartmental Humanities Program）が始まりました。文学部の学生が学科の枠を超えて挑戦できるプログラムです。文学部7学科と保健体育研究室の専門性を学生の興味でつなぐ 3 つのコースから選べます。共通するのは人文学的視点。これをコアにして学びの枠を大きく広げると、新しい発見ができるかもしれません。
「共通基礎科目」「個別選択科目」「プロジェクト・ゼミ」を履修し、プログラムを修了すると「プログラム修了認定証」が授与されます。

史学を専攻しています。

興味の中心は
アジアの近代史。

どのプログラムを選ぶか迷い中。

オリンピックの
開催国になる、ということは
国の歴史にとって
どんな意味を
持つんだろう？

東アジアの美術品は、
似てるようでも、
それぞれ違う。
どんな交流が
あったんだろう。

日本人が持つ
「近代日本のイメージ」は、
世界で
共有されているのかな？

身体・
スポーツ文化論

芸術文化論

ジャパノロジー

太陽王ルイ 14 世は、
バレエのダンサーだったし、
織田信長も幸若舞を
よく踊った。彼らは
それによって
どんな身体知を
身につけていたのか。

フランスのバロック音楽は、
他の国のバロックと
かなり違うらしい。
なぜだろう？

ゴダールが尊敬する監督は、
日本の溝口健二だという。
ふたりに共通点は
あるだろうか。

どのプログラムを選ぶか迷い中。

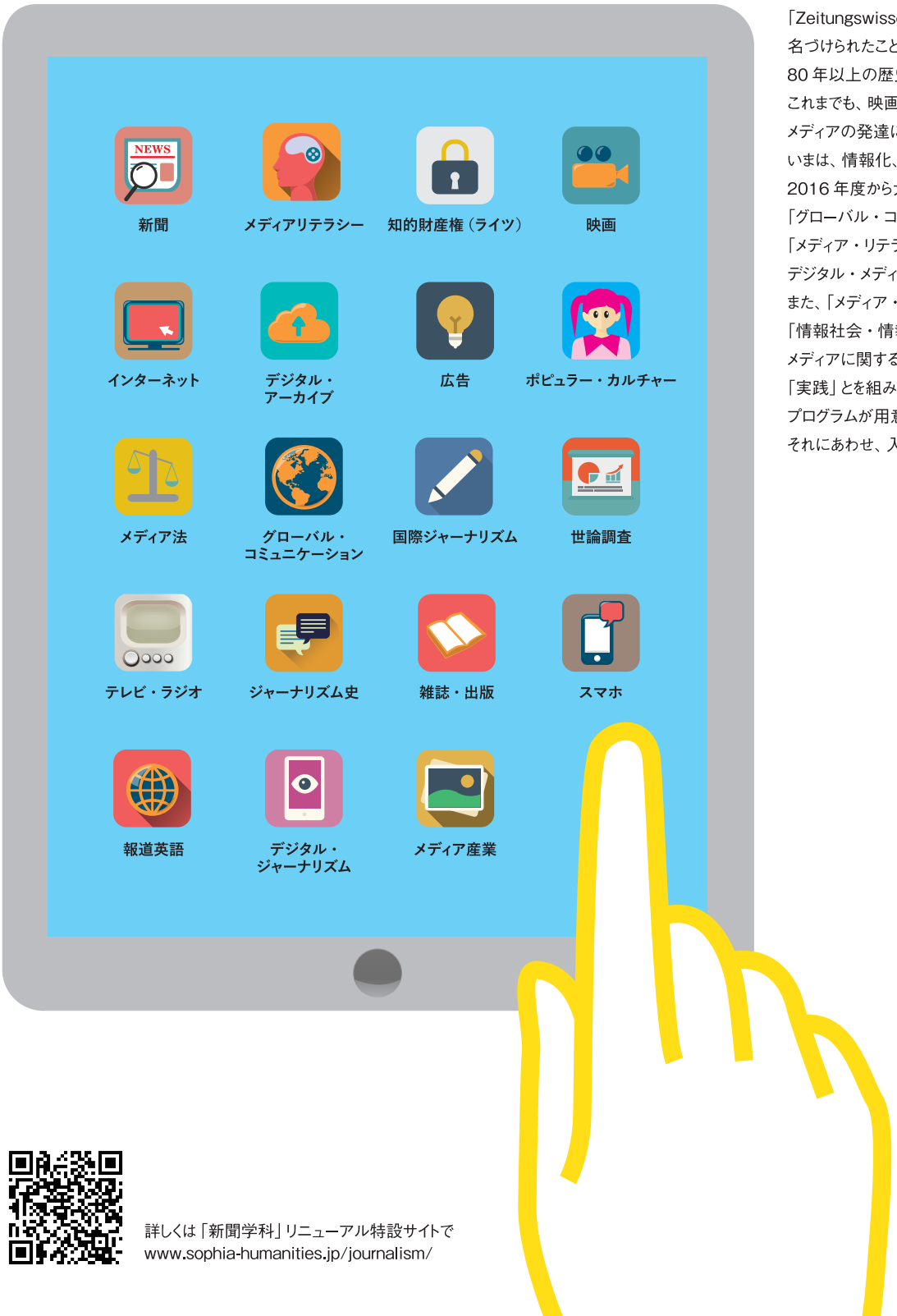
フランス文学専攻です。

20 世紀フランスの文化、
とくに映画が好き。

詳しくは「横断型人文学プログラム」特設サイトで
www.sophia-humanities.jp/ihp/

「新聞学科」は進化します！

変わらないのは名前だけ。



1932 年、上智大学専門部に「新聞科」設立。
これが現在の「新聞学科」の起源です。この名称は、
当時ドイツで確立されつつあったマスメディア学が
「Zeitungswissenschaft ＝ 新聞科学」と
名づけられたことに影響を受けています。
80 年以上の歴史を持つ新聞学科ですが、
これまでも、映画、ラジオ、テレビ、インターネットなど、
メディアの発達に対応したカリキュラムを組んできました。
いまは、情報化、グローバル化の時代です。
2016 年度から大幅にカリキュラムを拡充し、
「グローバル・コミュニケーション論」「デジタル・アーカイブ」
「メディア・リテラシー」「デジタル・ジャーナリズム論」など、
デジタル・メディア社会を切り拓く多彩な科目を準備中です。
また、「メディア・コミニケーション」「ジャーナリズム」
「情報社会・情報文化」の３コース制を導入、
メディアに関する「理論」とインターンや実習などの
「実践」とを組み合わせ、卒業後の社会での活躍を意識した
プログラムが用意されます。
それにあわせ、入学定員も増やす予定です。

テレビセンターでの番組制作やメディア・インターンなど実践的な科目も充実しています。

詳しくは「新聞学科」リニューアル特設サイトで
www.sophia-humanities.jp/journalism/

文学部は動いています！

ちょっとご紹介。

上智大学のなかで、もっとも長い歴史をもつ文学部ですが、
時代に合わせてつねに進化し続けています。
今何が起こっているのか、すべてを書ききれないのが残念ですが、
そのごく一部分をご紹介します。

英文学科は今春からカリキュラムを一新しました。新生英文学科誕生です！ということで、これまでにない授業の導入にも取り組んでいます。たとえば“Morning English”。1時限目開始前の早朝45分間、週2回、1年生全員を対象に、reading, listening 徹底強化のクラスです。四ツ谷に降り立つと目に鮮やかな緑。すがすがしい空気の中、キャンパスでは early birds たちが元気に集っています♪ 朝一番、世界各地のニュースを英語で聴いて、まずは眠っていた脳を起こしましょう。そこから Sophia の一日が始まります！

2014年度から哲学科の第一外国語は、ドイツ語、フランス語、ラテン語、英語の中から選べるようになりました。これで、これまで哲学科の強みだったドイツ語圏・ラテン語圏の哲学に加え、最近関心が高まっているフランス語圏の哲学が学びやすくなりました。また、これまで開講されていた輪講の「現代哲学」の他に、新たに「現代哲学史」を開講しました。現代の英語圏の哲学（分析哲学、言語哲学、科学哲学）を学ぶ機会が広がりました。

「国文」を伝える――国文学科は、日本の言語文化（国文）を学ぶ学科です。と同時に、国語科教員の養成につながる講義・演習も提供しています。中学校・高等学校の教育内容に対応したカリキュラムの3領域、国文学・国語学・漢文学は、幅広く学ぶことが奨励されており、創設以来、数多くのOB・OGが教壇に立っています。日本文化を過去から現在、そして未来まで支え続ける「国文」。これを次の世代に伝える熱意を持った学生を待っています。

史学科では、新入生がスムーズに大学教育に移行できるように、少人数クラスの「歴史学入門演習」（秋学期）を開講していますが、2015年度からこのクラス編成を春学期に繰り上げました。これによって、教員が少人数クラスの担任として、新入生の相談にきめ細かく日常的に対応できる体制が整いました。また、昨年度から、学科のHPを大幅に拡充し、卒業して社会人となった先輩たちの活躍ぶりや生の声を伝える努力をしています。スナップ写真等も満載で、学科の雰囲気や教員と学生との距離の近さがよくわかるので、高校生の皆さんもぜひ見てください。

皆さんはバレエ「ジゼル」の舞台がドイツだってご存じですか。でもなぜドイツなのでしょう。ジゼルは生きている時も死んだあとでも、どうして踊らないではいられないのでしょうか。そして月夜の森に浮遊する亡霊ヴィリーたちの正体とは？今年度の「演習」では、ロマンチック・バレエの代表作にドイツ文学科生ならではのアプローチを試みました。参加者はグループ毎にテーマを決め、ダンスや文学、音楽の歴史、社会と政治状況等々、関連情報と舞台での実体験を総動員して、美しさと恐ろしさが渾然一体となったジゼルの「舞台裏」に潜入しました。

詳しくは、
中頁へ

フランス文学科の学科生には、語学や文学に対する関心だけでなく、バレエや美術など、文学以外のことがらに関心を持って入学した人も多くいます。フランス文学科にはそんな知的好奇心に応えるために、「舞台芸術論」「フランス美術論」「フランス映画論」などの科目もあります。そのなかでは、それぞれの作品の表現の工夫や新しさを分析し、それらが生み出した価値観や感性を読み解きます。そして言語や文学について学ぶことは、こうした作業に必要な、方法や観点を手に入れることでもあるのです。

詳しくは文学部オリジナルサイトで
www.sophia-humanities.jp/

オープンキャンパス 文学部説明会開催日程：7/30（木）・31（金）